

〔スピードフレックス(テフロン)ホース⇄ホースエンド組み付け手順〕



1 まず P333 のホースカッター(専用工具)などを使用して規定の長さにホースをカットして下さい。



7 次にスピードフレックスホースを軽くバイスではさみテフロンチューブ部分にハンマーでオリーブを奥までたたき込んで下さい。



2 次にスピードフレックスホースのステンメッシュ部が内側のテフロンチューブより突き出さないようにステンメッシュ部分を P333 のハサミ(専用工具)などを使用してカットして下さい。



8 次にナット・ニップル部分をバイスではさんで P182 のアッセンブリーグリス(専用潤滑剤)などを塗布する。(この作業は必ず行って下さい。)



3 次にスピードフレックスホースをカットした際、内側にはバリが付いているので、カッター等を使用して取り除いて下さい。



9 次にソケット部にホース/オリーブをセットした物とナット・ニップル部分の組み付けですが先にネジ部分同士が噛合うまで手で操作して下さい。



4 次にホースエンドのソケット部分をバイスではさみます。その際、ソケット部にキズ防止の為 P332 のバイスジョー(専用工具)をセットする事をおすすめします。



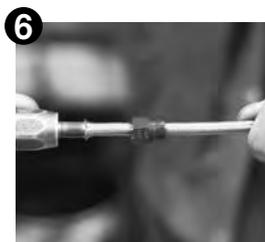
10 次に本締めですが、キズ・スベリ防止の為アルミホースエンドレンチ(専用工具)の使用をおすすめします。専用レンチは P330 を参考にして下さい。



5 次に②で作業したスピードフレックスホースをバイスではさんだソケットの部分に入れる。その際メッシュ部分がささくれている場合、指先などで修正して入れ込んで下さい。

〔スピードフレックス用ホースエンド(メスタイプ)サイズ表〕

ホースサイズ	ナット	ニップル	ソケット
#3スチール	1/2"	1/2"	7/16"
#3アルミ	1/2"	1/2"	1/2"
#3ステンレス	1/2"	1/2"	7/16"
#4スチール	9/16"	9/16"	9/16"
#4アルミ	9/16"	9/16"	5/8"
#4ステンレス	9/16"	9/16"	9/16"



6 次にワイヤーメッシュ部分とテフロンチューブ部分を P183 のブレードスプレッダー(専用工具)などを使用して分離させて下さい。



11 最後にニップル・ソケット部分のクリアランスをチェックして下さい。1mm前後が最適です。

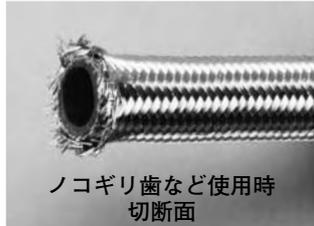
〔オートフレックス / パフォーム O フレックスホース⇄スイベルシール組み付け手順〕



まず P333 のホースカッター（専用工具）などを使用して規定の長さにホースをカットして下さい。



上記専用カッター使用時
切断面



ノコギリ歯など使用時
切断面



次にホースサイズに合わせてゆっくりソケット部分よりホースを抜いて下さい。クリアランスは下記表を参考にして下さい。

〔サイズ別 クリアランス表〕

ホースサイズ(#)	クリアランス(mm)
6	1.6
8	2.0
10	2.4
12	2.8
16	3.2



次にホースですが、ノコギリ歯（ナイロンメッシュは使用厳禁）などでカットした場合、内側のゴム部分よりメッシュ部分が突き出しているので P333 のハサミ（専用工具）などを使用して突き出した部分をカットして下さい。

※専用カッター（上記）使用時にはこの作業は不要です。



次にナット・ニップル部分をバイスではさんで P182 のアッセンブリールーブ（専用潤滑剤）などを塗布する。

（この作業は必ず行って下さい。）



次にホースエンドのソケット部分をバイスではさんで下さい。その際、ソケット部分にキズ防止の為 P332 のバイスジョー（専用工具）をセットする事をおすすめします。



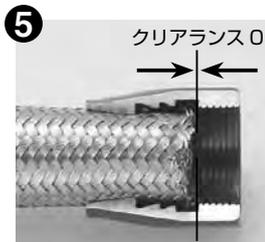
次にソケット部にホースをセットした物とナット・ニップル部分との組み付けですが先にネジ部分同士が噛合うまで手で操作して下さい。



次に①で作業したホースをバイスではさんだソケットの部分に入れる。その際メッシュ部分がささくれている場合、指先などで修正して入れ込んで下さい。（かなり強い力が必要です。）

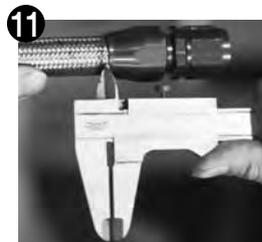


次に本締めですが、キズ・スベリ防止の為アルミホースエンドレンチ（専用工具）の使用をおすすめします。専用レンチは P330 を参考にして下さい



クリアランス 0

次にホースの先端部がソケット内部のネジ終り部分まで来るよう差し込みます。その状態でのクリアランスは 0 です。



最後に⑤で作業したソケット部分とマーキング部分が合っているかクリアランスをチェックして下さい。



次にクリアランス 0 の状態でホースにマジックペンなどでマーキングして下さい。

注意 実車に取り付けて走行する前に圧力をかけ、漏れなど無いか必ずチェックをして下さい。